

連合 2013 平和広島集会

「核兵器廃絶と世界の恒久平和を！」

～全国から2千人を超える仲間が結集～



平和広島集会に参加された連合福島派遣団の皆さん
労働組合総連合（ITUC）や平和市長会議などをはじめ多くのNGOとも連携し、核兵器廃絶運動を強化しよう。」と訴えた。

続いて、平和の語り部・被爆体験証言者として広島県原爆被害者団体協議会理事長 坪井 直（すなお）氏から「20歳時に被爆し、その後も幾度も危篤状態に陥るも核兵器廃絶を訴え、被爆体験を後世へと引き継ぐため、日本ばかりでなく世界にも88歳との高齢でありながらも訴え続けている。」まさに坪井氏本人の生き様が訴えられた。



原爆ドームを後ろに広島平和記念公園(式典会場)にて

68年前、原子爆弾が投下され一瞬にして14万人余りの尊い命が奪われた広島市に、全国から2千人を超える仲間が「核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現」を求め結集した。

連合福島からの派遣団7名は、8月5日に広島市上野学園ホールで開催された「連合2013平和広島集会」に参加し、職場や地域から核兵器廃絶運動を粘り強く取り組んで行くことを誓いあった。

集会では、連合南雲事務局長が主催者を代表して「2015年に開催されるNPT再検討会議に向けた取り組みが大事であり、連合は国際



平和の折鶴を手にする古川団長(右)と谷さん

特に「人が集まって訴えることは大事だが、烏合の衆であってはならない。目的を持って訴え続けること、皆さんにはそれが出来る。」という言葉が印象に残った。

連合福島平和行動 in 広島派遣団一行は、平和記念式典や原爆ドーム、広島平和記念資料館（原爆資料館）等を視察し、福島への帰路についた。